

Niigata city Fire Bureau, Chuo Fire Department

新潟市消防局・中央消防署

【消防庁舎のご案内】

安心・安全都市の実現を目指して





01

Front Line of Fire and Disaster Prevention

防火防災の最前線へ



このまちの暮らしをまもるために

近年、日本各地で発生している大規模災害によって、市民の「安心・安全」に対する関心の高まりから、消防に求められる期待もより大きなものとなっています。

また、東日本大震災などで本市が果たした災害対応、災害支援などから、政令指定都市・新潟の拠点性、重要性が高まっていると言えます。

このような中で移転新築した消防局・中央消防署は、火災をはじめとする災害はもとより、県内外で発生した災害に対応するべく優れた拠点性をもっている事が特徴です。

市民の皆様の安心・安全な暮らしをまもる大きな役割を担うべくこの庁舎は誕生しました。



防火・防災活動の新たな拠点



● 目次 Contents	設計コンセプト	04
	庁舎概要	06
	各階主要機能	08
	訓練棟・付帯施設	14



02

Design Concept

設計コンセプト

01 大災害発生時に消防活動能力を最大限発揮できる庁舎

● 庁舎に免震構造を採用

大地震発生時にも消防活動拠点としての機能を維持するため、免震構造を採用。
基礎免震構造として、積層ゴム、オイルダンパー、直動転がり支承、弾性すべり支承の各装置を設置。

● 液状化対策として、地盤改良を実施

● 津波対策(ゲリラ豪雨へも対応)

● ライフラインの確保

- ・ 自家発電設備の強化
ディーゼル発電機/300kVA×2台

● 屋上ヘリポート(場外離発着場)の設置





安心・安全な暮らしを支えるために



02 機能的で安全かつ運用がスムーズな庁舎

- 火災・救急等のスムーズな災害出動
- 機能を持続しながら改修が可能



03 省人化・省エネ手法の採用による経済的な庁舎

- 太陽光発電システムの設置 (20kWh)
- デマンド監視装置の設置
- エコボイド (吹き抜け) の設置
- 雨水利用
- 冷暖房の省エネ化
- 照明のLED化



03 Outline of the Buildings 庁舎概要

R

Roof floor



無線鉄塔



ヘリポート



太陽光発電設備

5F

Fifth floor



電気室



自家用発電機室



窒素ボンベ庫

4F

Fourth floor



消防指令管制センター



コンピュータ室



作戦本部室

3F

Third floor



講堂



打合せコーナー



消防局事務室

2F

Second floor



救命実習室



鑑識室



書庫

1F

First floor



エントランスホール



車庫



消防署事務室



指令機能と消防機能を融合した司令塔



- 無線鉄塔
- ヘリポート(場外離着陸場)
- 太陽光発電設備
- 空調用機器

- 電気室
- 自家用発電機室
- 無線機室
- 窒素ボンベ庫(不活性ガス消火設備)

- 消防指令管制センター
- コンピュータ室
- 作戦本部室(消防指令管制センター予備室)
- 会議室(緊急消防援助隊指揮支援本部・コンピュータ予備室)
- 指令課事務室
- 仮眠室

- 講堂(市災害対策本部予備室)
- 会議室
- 打合せコーナー
- 消防局事務室
- 局長室

- 救命実習室
- 鑑識室
- 書庫
- 倉庫
- 印刷室
- トレーニングルーム

- エントランスホール
- 車庫
- 消防署事務室
- 仮眠室
- 署長室

● | 基本情報 |

敷地面積 16,520.60㎡
 総面積: 建築面積/3,000.66㎡
 延べ面積/9,852.58㎡

● | 庁舎棟 |

構造: 鉄筋コンクリート造/基礎免震構造
 (無線鉄塔とヘリポートは鉄骨造)
 階数: 地上5階建て
 面積: 建築面積/2,213.31㎡
 延べ面積/8,321.15㎡
 高さ: 庁舎軒高 34.87m
 最高高さ 35.47m
 無線鉄塔高さ 86.20m/工物としての高さ
 92.40m/航空法上の高さ(避雷針先端)

● | その他の建物 |

(1)訓練棟(P14 - P15に記載)

(2)車庫

構造: 鉄骨造/平屋建て
 用途: 指令広報車等12台を格納

(3)廃棄物保管庫

構造: 鉄筋コンクリート造/2階建て
 用途: 1階 廃棄物保管庫、トイレ
 2階 ガスガバナ室

(4)おもいやり駐車場

構造: 鉄骨造/平屋建て
 用途: 車いす利用者等の自動車2台分

(5)来庁者用駐輪場

構造: アルミニウム合金押出形架構
 用途: 自転車9台分

(6)職員用駐輪場

構造: アルミニウム合金押出形架構
 用途: 自転車13台分

● | 付帯施設 |

(1)自家用給油所: ガソリン 4,000ℓ 軽油 6,000ℓ
 (2)駐車場: 140台分



04

Main Functions

各階主要機能

1F

First floor



エントランスホール

来庁者のみなさまが防火・防災・救急に関する知識を身につけられるよう「学習」「体験」「展示」のエリアを設けました。



消防署事務室

消防署に勤務する職員の事務室です。来庁された方が利用しやすいよう、エントランスホールから直線的な位置に受付を配置しました。



会議室101

消防署に来庁された方との打合せに使う会議室です。プライバシーに配慮した設計となっています。



学べる消防ステーションへようこそ



防火衣着装室

災害出動をスムーズに行うため、動線上に専用室を設けました。回転式ロッカー(1台で3人分収納)で省スペース化にも配慮しています。



ランドリーシステム

消火活動により汚れた防火衣を洗濯・乾燥する設備です。6着同時に洗え、撥水効果を甦らせることができます。



ホースタワー室

消火活動で使ったホースを乾燥するスペースです。天候に影響を受けないよう屋内に設けました。



車庫

消防局と消防署の車両を格納する車庫です。ポンプ車などの消防車両のほか、大規模災害や特殊災害などに出動する特殊車両を格納します。

2F

Second floor



鑑識室

火災原因を特定するための精密機器を設置しています。出火原因と疑われる物品を調べ火災の原因を特定します。



トレーニングルーム

筋力トレーニングに必要な器具などを設置し、災害現場での活動に必要な体力を養います。



救命実習室

応急手当やAEDの普及啓発と、実際に知識や技術を身につけていただくための講習会などに使用します。また、職員の救急活動能力の向上を図るための研修などにも使用します。



市民と繋がる安心・安全の架け橋

3F

Third floor

**講堂**

防火管理者講習などの各種研修会に使用するほか、屋内訓練場としても使用します。また、大規模災害が発生し、市役所内の災害対策本部が被害を受けた場合の代替施設としても使用します。

**消防局事務室**

消防局に勤務する職員の事務室です。消防局各課を同一フロアに集めるなど、機能的な配置としました。

**打合せコーナー**

消防局へ来庁された方との打合せに使うスペースです。各ブースの間仕切りを人数に合わせて変えながら弾力的に使用することができます。

4F

Fourth floor



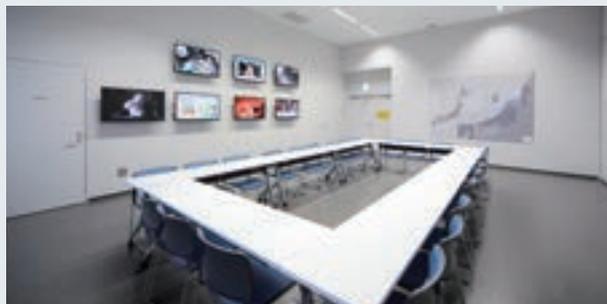
消防指令管制センター

市内全域の119番通報を受け付け、迅速、的確、効率的に管制業務を行うための高機能消防指令管制センターです。来庁された方には専用の見学スペースを設けています。



コンピュータ室

指令管制システムのコンピュータ室です。



会議室401

普段は会議室として使用します。大規模災害が発生した時には他都市からの緊急消防援助隊の指揮支援本部として使用します。



作戦本部室

普段は消防職員や消防団員の研修などに使用します。災害が発生した時は消防局の作戦本部室として使用します。



一瞬たりとも休むことなく災害にそなえて

5F

Fifth floor



自家用発電機室

大規模災害による停電時にも消防活動拠点としての機能を維持できるよう長時間運転が可能な常型の発電機を2機設置しました。燃料(軽油)は1週間以上継続して運転が可能な30,000ℓを貯蔵しています。

R

Roof floor



太陽光発電設備

環境への配慮として20kWhの発電能力を持つ太陽光発電設備を設けました。



空調用機器

耐震認定を受けた中圧ガス管からガスを引き込んでいるため、地震時にも空調設備を継続して運転できます。



無線鉄塔

消防救急無線などのアンテナを設置するための鉄塔で、高さは約87mです。遠方からでもよく見える消防局のシンボルの一つです。



ヘリポート

大規模災害が発生した場合に緊急消防援助隊などのヘリコプターを受け入れ、迅速な支援を受けるとともに、ヘリコプターを活用した消防活動を行います。(最大荷重:8.6t/広さ:22.5m×22.5m)



訓練棟・付帯施設



訓練棟概要

主訓練棟 (A)

構造: 鉄筋コンクリート造
階数: 地上6階建て
面積: 建築面積/248.92㎡
延べ面積/993.51㎡
高さ: 23.09m

補助訓練棟 (B)

構造: 鉄筋コンクリート造
階数: 地上1階建て
面積: 建築面積/144.65㎡
延べ面積/139.20㎡

補助訓練棟 (C)

構造: 鉄筋コンクリート造
階数: 地上1階建て
面積: 建築面積/76.30㎡
延べ面積/64.80㎡

A・B・C合計
建築面積/469.87㎡
延べ面積/1,197.51㎡

● 主訓練棟 (A)

- ・ FTS (実火災訓練室) ※FTS: Fire Training Systemの略
- ・ 潜水訓練室 (潜水プール)
大きさ: 直径: 5m・深さ: 7m 水量: 約137m³
- ・ 模擬訓練施設
ビル火災訓練施設、竪穴・横穴訓練室、迷路訓練室

● 補助棟 (B)

- ・ 倉庫 (訓練用資器材収納倉庫、水防用土のう収納倉庫)
- ・ 屋上: 訓練スペース

● 補助棟 (C)

- ・ 濃煙体験室及び消火体験室 (市民用の施設)
- ・ 屋上: 訓練スペース
- 屋外訓練場
面積: 3,200㎡
設備: 私設消火栓 (配管口径100mm)
防火水槽 (地下埋設40m³/雨水利用)



大切な“いのち”を守るために



ビル火災訓練施設

マンションや雑居ビル火災を想定し、はしご車による救助や消火、ベランダを使った救助などの訓練を行います。



FTS(実火災訓練室)

ガスを燃料としたボイラー装置により実際の火災に近い火災と濃煙を発生させ実戦的な消火訓練を行います。

※FTS:Fire Training Systemの略



迷路訓練室

可動間仕切りを使って複雑な迷路を作り、暗室の中で人命検索救助などの訓練を行います。



潜水プール

救助隊員が潜水訓練を行うプールです。直径5m×深さ7mの円形プールで底面から泡を発生させ視界を遮る装置を備えています。



濃煙体験室

煙の充満する通路での避難を体験することで、火災が発生した際の避難方法などを身につけることができます。



消火体験室

消火器を使つての消火体験を通して、初期消火に必要な知識と技術を身につけることができます。



屋外訓練場

ポンプ操法を3コース同時に行える広さがあり、その他にも放水訓練や車両走行訓練場を行います。



自家用給油所

大規模災害が発生した際にも消防車への燃料補給を途絶えさせないため、ガソリン・軽油を合わせて10,000ℓ貯蔵しています。



新潟市消防局・中央消防署

〒950-1141 新潟市中央区鐘木257番地1
 消防局/TEL 025-288-3191(代) FAX 025-288-3215
 中央消防署/TEL 025-288-3119(代) FAX 025-288-3315
 ホームページ/http://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/bohan/index.html



Access



バス(鳥屋野瀧公園前バス停)
 新潟駅南口から新潟市民病院行き(約20分)
 市役所前から新潟市民病院行き(約30分)

自動車
 国道8号(新潟バイパス)女池インターから約5分
 磐越自動車道 新潟中央インターから約2分

